

(別紙)

## 6 主な事業に関する調べ

事業名 烏取型地域交通MaaS推進事業										
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等										
(単位：千円)										
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額					
(所管替配当) 32,677	4,902	37,579	32,769	0	4,810					
1 主な事業の実施状況										
次のとおり事業を実施した。 ※MaaS：複数の交通手段を統合し、1つの移動サービスとして検索から予約、支払いまで可能にし、交通の効率化や利便性の向上を目指すもの（Mobility as a Serviceの略）。										
事業区分	事業内容	実績	決算額							
(1) 路線バスへの交通系ICカード導入検討	令和7年3月のJR山陰本線交通系ICエリア拡大に呼応し、県内路線バスへの交通系IC導入に向けた検討を進める。	・米子市循環バス「だんだんバス」への交通系IC導入を支援するとともに、導入手順やサービス内容をまとめ、令和8年春の運用開始を目指している県内路線バスへのICOCA導入に向けた参考資料とした。	3,343千円							
(2) MaaSセミナー開催	令和4年度に立ち上げたMaaS協議体（鳥取県MaaSエコシステム共創コンソーシアム）を中心に、先進事例の紹介等を通じ、本県における事業のアイデアを創出する。	・モビリティ・マネジメント（※）の手法や、県内の自動運転バス実証運行の事例についてのセミナーを開催した。 (R6.11.7開催、参加者61名) (※)過度な自家用車依存に対し、人々の行動や意識に働きかけ、公共交通利用への行動変容を促す手法	324千円							
(3) MaaS開発実証実験	AIオンデマンド乗合交通等の実証運行や、鉄道、バス、タクシー等の各交通モードを一体的に利用できる電子チケット決済等の実証実験に取り組む市町村やMaaS協議会等に対する支援を行う。	・鳥取駅南におけるAIデマンド乗合タクシー「とりモビ」や、倉吉市におけるグリーンスローモビリティの実証運行を支援した。 ・県東部地域のバス、鉄道乗り放題電子チケットや、県西部地域のバス1日乗り放題QRコードチケットのサービス拡充、鳥取砂丘コナン空港の二次交通対策に向けたMaaSアプリのサービス拡充検討を支援した。	18,162千円							
(4) MaaS構築に向けた基盤整備	令和5年度導入のバスロケーションシステムの保守管理を行うとともに、バス情報の国際標準化、オープン化を実施する。 ・既存のWi-Fiサービスが終了することに伴い、バスターミナル等へのWi-Fi環境更新支援を行う。	・県内路線バスに係るバスロケーションシステムを運用するとともに、システムから生成されるバスの現在位置情報を国際標準データ化し、県オープンデータサイトやGoogleMap上に掲載した。 ・公共交通利用者に対するサービス向上の一環として提供しているWi-Fi環境を維持するため、バスターミナル等のWi-Fi更新経費を支援した。	10,940千円							
2 事業の成果（改善状況）・課題等										
(1) 事業成果										
米子市循環バスへの交通系IC導入支援、県内各地でのMaaS実証実験支援、バス情報提供環境の充実等を通じ、県内市町村や交通事業者等と連携して本県の公共交通の利便性向上を進めることができた。また、令和8年春予定の路線バスへのICOCA運用開始を目指すことについて、市町村や交通事業者と合意することができた。										
(2) 課題										
人口減少やコロナ禍による人々の行動変容等により、公共交通機関の利用者数はコロナ前の水準には戻っておらず、また長引く物価高騰の影響を受け、交通事業者の経営は依然として厳しい状況にある。										
引き続き交通事業者への効果的な支援を行いながら、公共交通機関間の連携や公共交通機関と他分野（福祉、商業施設等）との共創、まちづくり施策との連動等により公共交通の持続性を高めるとともに、地域活性化にも寄与する「鳥取型MaaS」の推進により利便性向上を図り、公共交通の利用者を増やしていく必要がある。										

(別紙)

## 6 主な事業に関する調べ

事業名 鉄道による地域活性化事業					
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位:千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
46,814	(2月) △2,500	44,314	40,969	0	3,345
1 主な事業の実施状況					
県内の鉄道事業者であるJR西日本、智頭急行、若桜鉄道や沿線市町村、隣県（岡山県、兵庫県）、地域住民等と連携し、鉄道利用促進による鉄道ネットワークの維持及び鉄道ネットワークを活用したまちづくりに取り組み、利便性の高い持続可能な地域公共交通を実現する。					
細事業名	事業内容	実施状況			決算額
JR西日本や智頭急行と連携した誘客・利用促進プロモーション	(1)山陰本線・因美線など県内JR路線の利用促進	・岡山県と連携し「因美線応援スタンプラリー」を実施(R7.3.29～R7.6.30)。 ・山陰本線・因美線「観光列車あめつち」を運行し、ガイドによるおもてなしを実施。 ・先進地視察やJR因美線利用促進魅力発見ツアーを行い利用促進に取り組む自治体（智頭町）への支援を実施。			32,952千円
	(2)「やくも」「銀河」「あめつち」等を活用した利用促進	・「鳥鐵マナーアップ写真コンテスト」(R6.4.27～8.31)や「蟹取県コラボキャンペーン」(R6.11.7～R7.1.31)などのイベントを実施。 ・「やくも(ラストラン)」・「あめつち」・「はなあかり」の記念乗車証、新型やくも関係の記念グッズ等の制作、情報発信を実施。			
	(3)名探偵コナン列車のリニューアルを契機とした魅力発信	名探偵コナン列車のラッピングの更新・貼替とリニューアル車両の出発式(R7.3.16)を開催。			
	(4)サンド・アローラサンドのラッピング列車を活用した地域や公共交通の魅力向上	「とっとりふるさと大使」に任命しているポケモンキャラクター、サンド・アローラサンドのラッピング列車とコラボした鳥取駅等の装飾、セレモニー(R7.3.9)の実施。			
	(5)交通と地域のまちづくりの一体的な検討と機運醸成	両備グループ小嶋光信代表とデザイナーの水戸岡鋭治氏を講師として迎え、地域公共交通まちづくりシンポジウムを開催(R6.12.15)。			
智頭急行開業30周年	(1)開業30周年にかかる各種イベント等への支援	・スーパーはくと車両の活用及びイベントの実施。 ・開業30周年を記念して智頭急行が実施した新聞広告やフォトコンテスト、30周年大感謝祭、鳥取駅での記念セレモニー、オリジナルグッズの作成等を支援。			5,261千円
	(2)開業30周年と沿線イベントと連動させた普通列車の利用促進	・智頭線利用促進協議会への特別負担金			
鉄道対策費	(1)在来鉄道整備促進事業	在来鉄道の整備促進に向け、各種協議会等に加盟し、連携して国やJRへの要望活動等を実施。 ・全国鉄道整備促進協議会 ・山陰本線・福知山線複線電化促進期成同盟会 ・因美線・津山線近代化促進期成同盟会 ・第三セクター鉄道等道府県協議会			2,756千円
	(2)鉄道利用促進事業	智頭急行及び若桜鉄道の鉄道利用促進に係る協議会に加盟し、沿線自治体等と連携した取組を推進。 ・智頭線利用促進協議会 ・JR線・智頭線中部地区利用促進協議会 ・若桜鉄道利用促進実行委員会 ・沿線市町村等と連携した利用実態把握 等			

細事業名	事業内容	実施状況	決算額
	(3)JR山陰本線を活用した因幡・但馬交流等促進事業	鉄道利用及び二次交通利用の支援等を行うことにより、山陰海岸ジオパークエリアを走る鉄道の利用を促進（鳥取県東部地域鉄道利用促進実行委員会への負担金）。	

## 2 事業の成果（改善状況）・課題等

### （事業成果）

- ・ 旧型やくもラストラン等を契機とした「鳥鐵マナーアップ写真コンテスト」を開催し、新型やくもや鳥鐵の旅の盛り上げ、鉄道写真撮影時のマナー啓発につなげることができた。
- ・ 観光列車「あめつち」や「はなあかり」の運行に合わせた記念乗車証の制作やガイドによるおもてなしを実施し、鉄道の旅の魅力向上につなげることができた。
- ・ 名探偵コナン列車のリニューアル・出発式を行い、スーパーはくとの情報発信による認知度の向上及びコナンファンを中心とした列車の利用促進につなげることができた。
- ・ 「とっとりサンド列車」とコラボした鳥取駅の装飾や因美線の特別運行等により、サンド列車の認知度の向上や利用促進につなげることができた。
- ・ 各協議会のキャンペーンや岡山県と連携した因美線応援スタンプラリーの取組等により、鉄道の利用促進につなげることができた。
- ・ 沿線自治体等と連携し、若桜鉄道を利用する高齢者や免許証返納者の運賃割引支援を行う等、日常利用の促進につなげることができた。

### （今後の課題）

- ・ 「鳥鐵の旅」をテーマとした観光誘客を図るため、引き続き観光列車の誘致やおもてなし機運の醸成、鉄道施設・沿線周辺の観光素材の磨き上げを行っていく必要がある。
- ・ JR鳥取駅～倉吉駅間でのICOCA運用開始（R7年3月）やR8春に予定している路線バスへのICOCA運用開始等、利便性を高める取組を推進するとともに、県民周知を行い、更なる利用者増を図る。
- ・ ローカル鉄道の維持存続に向けて、関係他県とも連携しながら、観光利用や日常利用の一層の促進を図る。

(別紙)

## 6 主な事業に関する調べ

事業名		鳥取砂丘コナン空港を拠点とした賑わいづくり事業											
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等													
(単位：千円)													
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額								
11,038	-	11,038	9,682	0	1,356								
<b>1 事業の目的・概要</b>													
「鳥取砂丘コナン空港」と「鳥取港」が連携し、両港エリア一帯が県東中部・但馬地方の観光・交流・情報の玄関口となることを目指し、「ツインポート」「空の駅」化プロジェクトとして交流人口拡大と地域経済循環の加速化を図るため、民間事業者が行うツインポートの賑わい創出に寄与するイベントの開催、「空の駅」化として空港におけるコナン装飾を活用した賑わい創出、空港周辺の二次交通改善等の取組を支援、実施する。													
<b>2 主な事業の実施状況</b>													
事業	実績						決算額						
<b>ツインポート加速化促進事業</b>													
交流促進 (補助 、委託)	「名探偵コナンナゾ解きラリー」を開催し、県内外から多くの方に空港に来訪いただいた。						2,746千円 (単位：組)						
	ナゾ解きラリー参加者	H30	R1	R2	R3	R4	R5						
		10,952	13,087	625	527	2,225	4,936						
		10,042											
「ツインポート」の知名度アップ (補助)	「鳥取砂丘コナン空港」愛称化10周年の節目の年として、デジタルサイネージ（鳥取空港と鳥取港に設置）の放送内容を、鳥取砂丘コナン空港のコナンの魅力、鳥取港との距離の近さ等をPRする内容に更新し、ツインポートの取組を情報発信した。						611千円						
ツインポートの賑わいづくり事業 (補助)	・昨年11月16日から17日の2日間にかけて「ツインポートフェスタ2024」を開催（主催：鳥取空港ビル株）し、その一環として、かにっこ空港ロード（県道鳥取空港賀露線）をルートとした「謎解きデジタルウォークラリー」を実施し、多くの方（4,560人）に参加いただいた。 ・今年3月20日に「鳥取砂丘コナン空港」愛称化10周年を開催した。コナン空港を謎解きに挑みながら周遊し、ゴールした特典として先着で名探偵コナングッズのプレゼントや松葉がなどの豪華景品が当たる抽選会を開催、また、イベント当日に鳥取空港と鳥取港で買い物をした方を対象に鳥取和牛などが当たる抽選会も開催した。加えて、「ジャパンコーヒーフェスタ」を同日開催し、多くの方（3,357人）に参加いただいた。						3,825千円						
<b>鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等を結ぶ二次交通改善対策事業</b>													
ツインポート相互移動円滑化事業	鳥取空港と鳥取港の中間付近に位置する空港展望所に、他施設（鳥取砂丘等）への案内を明示する案内標識を設置するなど、両港等の往来促進のための環境を整備した。						2,500千円						
<b>3 事業の成果（改善状況）・課題等</b>													
<b>(1) 事業成果</b>													
新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ鳥取砂丘コナン空港への一般来場者数は、本事業の取組もあり、令和4年度は、コロナ禍前（令和元年度）の約97%まで回復し、令和5年度は同約105%、令和6年度は同約111%まで回復・増加し、44.9万人（過去最高）となった。													
<b>(2) 課題</b>													
・今後見込まれる航空・観光需要を取り込み関係機関連携による「ツインポート」・「空の駅」関連事業を積極的に展開し、両港エリア一帯の賑わいづくりを更に推進していく。													
・令和4年度に本事業で策定した「鳥取砂丘コナン空港航空機利用・地域交通戦略」に沿って、スピード感を持って戦略に盛り込んだ項目内容（空港二次交通の強化等）の実装化に取り組んでいく。													

(別紙)

## 6 主な事業に関する調べ

事 業 名	鳥取砂丘コナン空港管理費									
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等										
(単位:千円)										
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額					
695,254	(6月) 49,000	744,254	657,988	42,849	43,417					

1 主な事業の実施状況

- 【運営交付金】民間による空港管理の効率化、空港の利用促進、空港を拠点とした賑わい創出の実現を図るため、運営権者に交付金を交付した。なお、運営交付金の額は、本事業を県自ら実施した場合に係る県直営費用から本事業によるコスト削減額および着陸料等の収入を減算した額（次式）。  
運営交付金＝基準費用（県直営費用－コスト削減額）－基準収入
- 【更新投資等】合意書上、県が費用負担すると定められたもの。施設等の更新・拡張・修繕および備品の購入・更新に係る費用。
  - （国際線ターミナル空調熱源更新）国際線ターミナルビルの空調用熱源機器の更新（冷温水発生機及び冷却塔を空冷ヒートポンプチラーに改修）（令和6～7年度継続事業）
  - （国際線ターミナル非常用発電機更新）「鳥取空港事業継続計画（A2-BCP）」に基づき、72時間連続稼動対応可能な非常用発電機（出力200→250KVA）へ更新（令和6～7年度継続事業）
  - （除雪車更新）老朽化と耐用年数超過に伴い修繕困難となったことに伴う更新（令和6～7年度継続事業）
- 【運営権外管理事業】空港の維持管理、空港用地（国有地等）の借用、その他に係る費用。
  - （騒音調査・分析および離発着割合調査・分析）「鳥取空港周辺対策に関する協定書」に基づき、騒音調査・分析および離発着割合調査・分析を行った。
  - （その他固定的経費、枠内標準事務費等）使用料・賃借料（爆発物検査装置賃借料、空港用地等借上料）、除草委託等諸費。
- 【その他事業】
  - （低層風情報提供システムの保守管理）離着陸時に多大な影響を与える低層風を観測し、運航中の機体に情報提供することで、安全性向上に貢献するシステムの保守管理を行った。
  - （中間評価委員会の開催）令和6年度は、事業期間を延長した第1期コンセッションの中間年度に当たることから、第三者評価を目的として「鳥取空港特定運営事業等中間評価委員会」を設置し、運営権者が特定運営事業等を適正かつ確実に実施しているか、外部の視点から検証および評価を行った。
  - （国際線ターミナル雨漏り補修工事）鳥取砂丘コナン空港国際線ターミナル内で、コナンホールや2階出発ロビーなど複数箇所において、腐食・劣化に伴う雨漏が生じていることから、その補修工事を行った。
  - （航空灯火LED化補用品等購入整備費）航空灯火のLED化に伴い必要となる補用品等の購入・整備（国庫補助対象外）に要する費用を運営権者に交付した。
  - （滑走路等電気料金高騰対策費）高騰した電気料金に係る運営権者の負担を軽減するため、令和元年度からの電気料金単価値上相当額を運営権者に交付した（電力使用量は令和元年度固定）。

3 事業の成果（改善状況）・課題等

(1) 事業の成果

- 空港の適切な管理やにぎわいづくり事業の効果等もあり、令和6年度搭乗者数は平成30年度以来6年ぶりに40万人を超えて過去2番目の多さを記録した。一般来場者数についても44万9000人と2年連続で過去最高を記録した。

鳥取砂丘コナン空港利用状況（搭乗者数・一般来場者数）  
(単位:人)

年度	国内線搭乗者 (鳥取-東京(羽田)便)	一般来場者	国内線チャーター搭乗者	国際線チャーター搭乗者
平成29年度	388423	1430	0	0
平成30年度	408732	379021	160	2912
令和元年度	403950	388696	990	4240
令和2年度	175340	241797	364	0
令和3年度	285314	392964	0	0
令和4年度	374150	422695	230	1010
令和5年度	401796	0	1645	440
令和6年度	0	0	318	0

(搭乗者数は、無償航空機利用者を含む)

(2) 課題

- ・運営権者である鳥取空港ビル(株)が令和3年度の中間評価結果を踏まえて改善に取り組んだ結果、令和6年度の中間評価では全ての評価項目で標準を上回る評価がなされた。  
他方、空港と周辺観光地等との二次交通の改善や空港DX化、人材確保・人材育成等の面で引き続き課題の指摘が行われたほか、第2期コンセッション（R9～）に向けた技術力・組織力の強化やブランド戦略の導入等、新たな指摘も行われ、この実現に向け運営権者と協力して引き続き取り組んでいく。
- ・また、第2期コンセッションも見据え、運営権者がより自由度の高い空港運営を行えるようにすることで、既存インフラの価値が高まるとともに、更なる利用促進が図られ賑わい創出の拠点となるよう当該事業を実施する（令和8年度：搭乗者427千人以上、一般来場者640千人以上）。さらに、空港設置者として安心・安全な空港運営を運営権者と協力して合理的に実施する。